

# 日本の歴史と砂糖のかかわり

奈良時代	710 平城京に都を定める 753 鑑真が日本へ
平安時代	794 平安京に都を定める
鎌倉時代	1185 壇ノ浦の戦いで平家がほろぶ 1192 鎌倉幕府が開かれる
室町時代	1338 足利尊氏が征夷大將軍に 1543 鉄砲伝来
安土桃山時代	1582 本能寺の変 1600 関ヶ原の戦い
江戸時代	1603 江戸幕府が開かれる
	1641 鎖国の完成
	1716 徳川吉宗が8代将軍に
明治時代	1853 黒船来航 1867 大政奉還 1868 明治維新

茶の湯の  
流行

**奈良時代 日本に砂糖が伝わる**  
唐招提寺の創始者である鑑真が中国から砂糖を持ち込んだという説や、遣唐使が持ち帰ったという説があります。当時の砂糖は薬であり、とても貴重なものでした。

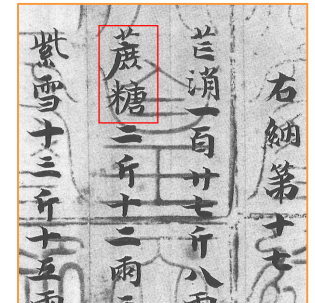
**室町時代 砂糖の輸入が始まる**  
中国との貿易がさかんになり、砂糖が輸入されるように。「茶の湯」が流行し、「砂糖まんじゅう」や「砂糖ようかん」という菓子が使われました。市場でもまんじゅうが売られるようになり、一般市民にも少しずつ砂糖が知られるようになりました。

**室町時代 南蛮貿易によって砂糖菓子が伝わる**  
1543年にポルトガル人が種子島に来航し、その後の南蛮貿易によって、カステラ、こんぺいとう、ビスケットなどの砂糖菓子が日本に伝わりました。日本で初めてこんぺいとうを食べた人は織田信長といわれています。

薩摩国（現在の鹿児島県）や琉球国（現在の沖縄県）で黒砂糖が作られる

**江戸時代 出島砂糖**  
幕府の鎖国政策によって貿易の拠点は長崎の出島だけになったため、当時、輸入された砂糖は「出島砂糖」と呼ばれました。

**江戸時代 幕府が砂糖の製造を奨励**  
8代将軍徳川吉宗は江戸城内でサトウキビの栽培に取り組み、全国の各藩にも砂糖をつくるようすすめました。幕府の奨励を受けて、西日本の諸藩も競って砂糖の製造を始めました。



正倉院に保存されている薬の目録「種々薬帳（しゅじゅやくちょう）」には、砂糖を意味する「蔗糖（しょちよう）」についての記録があります。



室町時代の饅頭売りの様子（左）。  
伴信友『職人歌合画本』国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/2551814>



和三盆糖（わさんぼんとう）は、江戸時代からの伝統的な製法で作られる砂糖です。とても細かく、口どけがよいので、高級な和菓子に使われます。江戸時代後期に阿波国（現在の徳島県）、讃岐国（現在の香川県）で製造が始まりました。